

地産地消ビジネスに参画「夢ある仕事」に挑戦

「花が咲くかどうかは分からないが、大きな可能性と魅力がある」。中田商事（三重県伊賀市）の中田純一社長は、昨年12月からスタートさせた新規事業をこのように説明する。新たに

加盟する地域商社から注文を受けると同時に、地域のスーパーや食堂などに配送する仕組みで、同社は伊賀地域の農産物を集荷し、流通への橋渡しを行う。すでに冷凍車も初めて導入し

先輩やら後輩やら昔の知り合いばかり」。それは、農家などの生産者や農協職員、行政職員まで広範囲に及び、話がとんとん拍子で進んだという。

とはいえ、売り上げはまだほんのわずか。この先もどう化けるのかまったく想像ができないというが、「もともと人と人とのつながりが好きなので楽しい。地域の活性化に貢献する仕事なので将来的に必ず求められる存在となるはず」と前向きだ。さらに、企業イメージが定着することで地元の人材確保につながることも期待している。「ビジネスは後付けで活性化していくと思っている。夢のある事業なのでできる限り継続していきたい」と笑顔で話す。



人と人とのつながりが好きだと話す中田社長

始めた事業とは、産官学で進められている「地産地消“たべねっとみえ”」。これは、地元の小規模農家から農産物を集約し、消費者、小売店、レストランなどが

た。この事業を始めて驚くことがあったという。「これまで地元企業との取引はほとんどなかったが、たべねっとを始めてみると、周囲は